

言部正名号家号 十四

和書門類			
二〇	九三	二八四一	
冊	架	函	號

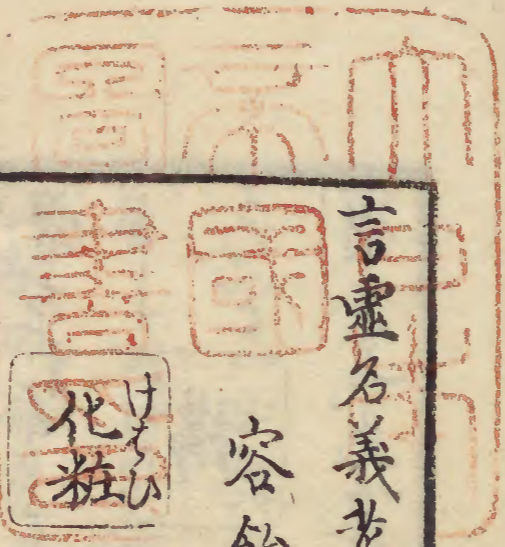
庫文閣内		和書
二〇	二八四一	
七函	一〇冊	架
一六		架

内閣文庫		
番號	和	28481
冊數	20	(15)
函號	207	325



言靈名義考卷之十四

容飾之具



化粧けいしけ 八氣也。まひハ延也。并延る亦通すと云義也。衣裳の化  
る粉の粧。并延る徹する不けまひあり。

まひけ 玉け

搨けん笄けい

搨笄けんけい 髪也。かゝると云義なるを。かうをく々と約めてくると云。

まひけ 八天はてん比ひる也。頸のうのうも同一。うハ初はつ祭さい也。ハ領りやう也。

人の髪は初髪してまぶを領するものを髪也。くくと約束して付止りて不離不を領するの義とせり。髪ハ人天ニテ納り止ると云義よて也。名也。生るるふかきやくハ申すへく集める時の名よて。其名也。猿サルをまきツツ鶴をつるといふも同。梳るハ梳る家と云義也。なるをカヘをケと約束くくけといひ。容飾之具悉くけ箱中よおぬ也。くけクハ敬詞也。まけマ玉もて飾也。常よ髪をおくといひ。よよい義也。

**櫛**

玉櫛 髪カミ細く つけツケおぬく

**櫛** ハ上よいづるくく之義を。活利きて是る名とせり。その髪を

名十四 一

中業只此具子付止るるを領ると云義也。玉櫛 玉の小櫛 といふハ玉飾也。細櫛 如名沙サよえり。葉の細ホソなる也。つけツケの小櫛 黄柳の本も下シたる櫛也。おの櫛オノ古ハ皇女伊勢の奇言キコトのいふをぬふ。ゆかぬユカヌ士常シトウのちぬくは撥ハきくせぬひてぬれをさぬサぬヌをぬれぬヌと云。

コロハ

かうぐひ

かうハ沢也。(べ)皆略すくうと云。ぐひハ身も襟生發りぬくと云義也。女の尻一不よし生發りて身過せりと云義也。古ハなりの物と云え。如名油もは名に云す。刀紐の字はうぐひ云もの也。

簪

簪(ら)ハ髻の天也。流也。(む)ハ壓定むる也。さしハ刺也。女の尻上髪と壓定めて刺るおと云義也。(ハ)挿流挿流の詞より挿流未

名古 二

ぬる名也。挿流ハ相定めあり。け方ハ相定めぬるなり。うむと挿流定めていり。玉の簪 俗のなり。

鏡

ます鏡 ます鏡 朝鏡 夕鏡 水鏡  
池の鏡 月の鏡 人の鏡 世の鏡

道の鏡

鏡(ら)ハ明也。(が)ハ眩也。(こ)ハ納り出る也。人の鏡おの鏡。吾妻鏡魂也。け裏に納り出ると云義也。ます鏡 ます鏡のよハ其の者りよらうりなり。朝鏡 夕鏡 朝夕よこるものなり。射せり。水鏡ハあまうつし影るるを。流へてあかしく云。池の鏡 池名のよき法也。鏡の形はうま編り云也。月の鏡 月の形のなり。鏡のまやま

之巾を。後子けし云也。花の鏡 花の影をうつるをいふ。人の鏡 人の影をうつるをいふ。世の鏡 世の影をうつるをいふ。月の鏡 月の影をうつるをいふ。

紅粉

紅粉 べに粉り退くの名。よ 付後の名也。紅粉を顔面にさす。色面を掃りて面を付。またふいふも然り。よてべにと号く。

白粉

白粉 しろ粉り退くの名。ふ 付後の名也。白粉を顔面に塗。

名十四 三

粉 しろきものことなり。時の形也。俗に粉りといふ。古にしろきものといふ。和名粉は。

黛

黛 云上人の画眉墨也。

澤

澤 油膚也。女の顔色を澤すもの也。

黒齒

黒齒 齒黒めよて俗よくねと云ふもの也。

剃刀 うきそり

剃刀 髻す法と云義なりを。すをそと約めてそりといひ。その名  
義より精ゆる名よて。人身の天をきよと云也。すハをその義也。そと約  
めてそと云義とせり。をハの義あり。そハの義の詞。と語すよと  
と云義也。仏道世よ始りて剃髪するよ出まぬ。仏の語すよと云義也。

鑷子 けぬき  
もれけぬき

鑷子 毛抜なり。もれけぬき 鼻毛抜也。

名十四 四

鉸刀 たさき

鉸刀 夾ハとよてたせのこと云義也。せらハをタと約めてたさきと  
号く。たせハ也かハの嚼也。け具亦ハよと云義也。

澡浴之類

沐浴ゆあ

沐浴ゆあ ①ハ湯也あハ編也。湯を編て人牙を取むる事也。ゆあ  
ミとナツ。

浴斛ゆかく

浴斛 湯を盛盥也。

盥たらい

盥 大らひの盥合也。リ<sup>レ</sup>あを<sup>レ</sup>らと<sup>レ</sup>約めて名とせり。湯水是り申す  
足合相と云義也。

內衣 中より

內衣 申 <sup>①</sup>ハ袖也く<sup>②</sup>ひらハ片平也。沐浴するにまきる衣也。俗に申す  
といふ。

手巾 たのし

手巾 手を拭ふ巾也。のふの訓義ハ國語を義より<sup>①</sup>てぬる<sup>②</sup>を<sup>③</sup>常  
ハい<sup>④</sup>り。た<sup>⑤</sup>ハ<sup>⑥</sup>ての裏の訓。

屏障之具

帷 まひり

帷 片平也ひらハひろあの約ひらハ度也<sup>①</sup>ハ<sup>②</sup>取<sup>③</sup>也

幕

幕 <sup>①</sup>まハ廻り圍む也<sup>②</sup>くハ付<sup>③</sup>りて不<sup>④</sup>雜也山<sup>⑤</sup>帷圍ひなき<sup>⑥</sup>不<sup>⑦</sup>を<sup>⑧</sup>隔也

帟 ひらり

帟 <sup>①</sup>廣<sup>②</sup>あ<sup>③</sup>張と云義也廣く<sup>④</sup>取<sup>⑤</sup>れ<sup>⑥</sup>張と云義也



帷 あけり

帳 上張と云名也。

幌 とがり

幌 ハノ張也。

縛壁 たつかり

縛壁 和名新云。縛壁以席。縛著於壁也云。是を壁に塗  
籠るるなる一。さるハ大正也。つハ狭く也泊る也。土に縛まて

すふし泊る也。こもハ籠也。

幔 まきり

幔 ハ班幕也。そのあるまをいふ。

蓐 あぢり

蓐 和名鈔云。蓐竹席也云。あらぢりのららを晒けあぢりむ。

簾 すし

簾 簾垂也。簾垂すしと云義也。リすしをすしと約めてすしと

号く。すハ空々するを云也。玉す孔。去す孔。いす孔。なす孔。又  
 三すをすと。孔の詞を畧よてまいり。三ハ敬詞也。をハ外  
 發る也。すれけける形勢也。

坐卧之具

おまつき  
 儿

儿 押しまつきハ推る付と云義也。人手推て去らるる  
 付と云義也。つくえハちまき具也。

いれかけ  
 衣架

衣架 三ハ付詞ニ似たり。付詞ハ、あ、す、納め止むると云義なり。  
 三ハ衣也。りけハ掛也。納め止めて衣をかくえと云義なるを  
 元を けと約めて、いれかけと号。けハ音の誤り也。

牙床

和名抄云。遊仙座云。六尺象牙床と云えり。さらりくりもの  
て。吳床と云る。一。吳の名義ハ國之部よと云いり。

胡床

胡床ハ取れ出る座と云義也。座をくりと云ハるあと云義也。  
あをらと約めく名とせり。ころ付出り納ると云義也。あハ俗の  
也。

氈

名十四 九

氈

和名抄云。野王曰。氈毛席。然毛為席也と云えり。うも  
ハかまねと云義子て髮外子。髪外子を結ふと云義也。あ  
めて好ま集るの義とす。今。毛氈と云ものなる。

茵

茵  
①ハ領る也。②ハ出る也。③ハ収り結る也。昔人の領止ぬ収め  
結る座を〜とねと云。

圓座

圓座

ころりああや云義なるを。ああを〜と約めて。ころり〜

と号く。こりお取すゆ云義也。たの結法てよむ。

疊た

夏ハた編と云義也。あハたの款あり。たハあよりよ流り留る也。あより流り留りしとまぬて。あしと云義をこ細て名せり。

縁へり

縁へりハ退後す也。りハ私少の結。何のりもて本件ハ退後す。あしと云義をこ細て名せり。

筵ぢり

筵ぢりハ壓定むる也。志乃ハ傾木の約。ろと約めて度く傾定むるの義とす。人の為こり為よ。たするふりた。定むるふをむりと云。宴席を云り本也。筵ハ特名也。あて筵 万葉卷十一。

あて筵 万葉卷十一

ひよりぬるなごりぬるあやむりたをよ結るともたをよまむ。いのふらむあつをよふら。

薄こも

薄ハこまむと云義なるを。あれをもと約めてこもといふり。

こハ細也。まハ有也。織る不細る。あつと云義也。もと約めて不敷也の義とせり。

枕

枕 ハまくら くるあぐ云義也。くらくの教はあり。あるをくらく

約めて名とく。且反響り。寝定の義とせり。捲のこまありす。

起る子のあれ也。人寝る子捲ゆる器はす具也と云義也。

肘枕 袖枕 木枕 子枕 菰枕 苔枕 草枕 笠枕 蓑枕 波枕 楯枕 岩枕

松のぬ枕 岩のぬ枕 破枕 木多くいり。手枕 肘枕 袖枕 菰枕 蓑枕

捲くおを冠せしやといふ也。木枕つけの木枕ハ木で造り也。こハ木の

裏の詞也。旅枕ハ旅寐の枕なり。何よもあるへ。草枕 笠枕 蓑

枕 岩枕 岩のぬ枕 松のぬ枕 木ハ。旅人の形子 卧山は伏て。寝るの

寝る形勢をいへるありて。おの感を寝ふ也。古への旅也とて。

草岩松のぬ枕 枕よくぬぬ。まあるハ。波枕 楯枕 破枕 木ハ。

海濱のまひ。きをふなり。

行旅之具

旅た

旅の名義ハ度の不まじよいなる也。任國ヲ趣ク人の上ニ祭  
儀い名な子こて云ル命いのちをい終はと云義也。其教を昭明あきらか不な成なり。

攬らん

らん

攬らんハ泊とどむと云義なりをアをたと約めてとと云いる也。  
旅人の業わざをい一ひと一ひと當あたりて業わざをい一ひと一ひと當あたりて泊とどむと云義か  
る也。たと約めてとと云義をい一ひと一ひと當あたりて名なといふ也。

ハミヤ  
ハミヤ  
木の精用有。

荷向のさき

荷向  
ハミヤの調なまはあねと。固まりて後子奉らる。のさき  
糸セカキと云詞なるをせらる。ささと約めてのさきといふ。一方は二  
東人のさきのさきのなまのなまといふらるもののはま  
とあらる。東人のさきのさきとも云義也。のさきといふて去ハ非也。

竹鹿すけ

簾  
竹筐也竹器の部子己まいり。

餉うけい

餉  
干飯也。いいを界てふひといふ。うけいといふ。

標子めいし

標子  
餉管也。和名抄云。切韻云標。標子中有障之器也といえり。  
り。りりといふ。

篔の

篔  
ハミヤと云義なるを。ハミヤハミヤののと約めて名とせり。ハミヤ

也才也。②ハ付後ふ也。③ハ外に發る也。④ハ付後ひ人の才に付後  
ひて衣の外に發ると云義也。⑤と結ひて水師伸才伸延と云義  
とせり。管簔 すがハすけあの釣め。すがめてあふせし一のと  
云也。

竹りた簔

小簔 菅簔 竹簔 日簔 雨簔  
傘

竹りハ天也。⑥ハ握り深く也。人の上に握りしるおハ天也。是は  
はして人の上に握りしるおをりさると云。⑦ハ人の上に握りしるおハ天也。是は  
おがれと云と号す。小簔 菅簔 竹簔 云々のも皆。日簔 雨簔 日り  
つきの雨りつと也。傘 ハ雨りつと云と云義なりき。雨を略す

名十四 十四

くらしと云なる一。

簔おかり

簔 和名抄云。史記音義云。簔竹笠為柄也云々。

雨衣あまきぬ

雨衣 あまあああの釣。雨りに雨りす衣と云義也。

行勝むらえき

行勝 むらハ向あの釣。對影むらと云義也。ときハ帯也。是は對



ハヤテ第と云義也。今ハハント云々の也。

**行纏** オウキ

行纏 常々云義なるを。二言を合せて一名と云ふ。○オウキの一事を略す。○オウキを留りてオウキと云。オウキは常々と云義にて。今ハツトと云々の也。

**杖** ツエ

手杖 竹杖 鐵杖 横杖

杖 ○ツエは杖也。○ツエは内集む也。諸行杖は杖つゝま数少く似て泊時。つく数自然同子集りらるゝと云義あり。

手杖

手杖子握る杖と云義也。

**竹杖**

竹杖は杖也。

**鐵杖**

鐵杖也。

横杖 カマツエ

横杖は杖也。おかし子杖は流てそ子横ふる杖也。

**杖** オウキ

杖 あふ合也。○ハ合也。合ふと云義也。杖をかこ子たたき分量を合せて。將を合すふを名としてあふといふ。

**囊** フクロ

囊 ふくらふふらる杖と云義也。○フクロは杖を○フクロと約めて名とせり。○フクロは外子登る杖と云義也。○フクロと約めて名を廣く決定せり。

おひふろ  
勝

勝

おひ、負也。才子負以袋あり。

ふらふら  
肥幞

肥幞

衣包也。旅衣を包む巾也。

くろくろ  
鞋

鞋

くろくろハ藁也。トハ二方をノ領る也。是の左衣をノ領るハ  
くろくろと号く。農氏のまぐさ也。今草履と云お。古ハ乃

名十四 十六

鞋  
なり。

つと  
土産

旅つと

山つと

地つと

家つと

土産

つとハつちねと云義なる也。ちねを(と)と云約めて名とセ  
り。つちハ地也。そ地より登るおをそよ止めきて、人子縮るを  
つと、云。そ義を以て土産の字をあてり。旅つと 山つと  
地つと 家つと 土産

地つと

家つと

土産

山つと

旅つと

家つと

土産

山つと

旅つと

雜藝之部 器具

打毬 まりうち

打毬

和名抄云唐教云毬毛丸打者也といなり。

蹴鞠 まりあし

蹴鞠

こゆハ越也亦ハ鞠の人子ハ角也。

鞠

ハまゐると云義也。あ

ハまの教あり。まハ廻り用じ也。其形角也角の玉止るを蹴といあり。と云。

競馬 くらりま

競渡 くらりか

競馬 競後 競へ競ふの詞あり。引義玉語中競よりなり。

相叔 たうし

相叔 手くし也。たはての裏の詞。

相撲 あひむ

相撲 拳打也。

相撲 あひむ

相撲 ハを合と云義なるを。すの一考を略す。こあをまと納。

名十四 十八

すまひと号く。の業の上を争ひて。あひまを合すまひ也。

傀儡子 くわいご

傀儡子 未考。

牽道 けんどう

闘雞 とうけい

闘草 とうそう

名義明ら也。

画 え

画 一紙の内に山川の形勢を集むる業也。出づ人子占るものなり。

よて恵と号く。

占

占ハ<sup>記</sup>占るあと云義也。占を占と約めてうらと号く。トを占  
裏に占るふを占ひすう也。占るふ占り占らす。定め占  
き<sup>占</sup>占と結ひたり。占な占云ハ。占よ占と云義也。なふよあふ  
の約也。なふと結ひて。ト若の名とせり。是をゆあけといふとん  
ころ人あり。その言其のハ十のあも。ゆあけとん。うらあもよ  
のれがのゆあけを占のふとあも也。うの夕けハ。夕けとあも。  
占りよむて。夕れの約も。夕れ同占ふ。昔云義也。

名十四 十九

ゆあけトなむよ。又占とまぬて云へきうハ。占をゆあけ。あや  
まふホ。いふよハ。なまきとなり。

ふ

古の記曰。布斗麻迹尔ト相而詔云。書記曰。太占此謂  
布斗磨尔云。是をト筮の名也。曰くよりしい。近世言其学  
ふ人者。らひ起りて。怪しき業ユに出る。人を欺くあり。ふまよ  
と云ふハ。紀記よもよひくらす。こをこれ。そ女を伺ひ  
るよ。ふもハ。太也。まよハ。陽と云義也。古分よ凡のあふ。  
水のまよ。いふまよ。て。欺く神のまよ。太き占心は。

ろしめすを太まゝいふてとのなるなるを文字をひえす  
 ト筮の事也といふは占ての詞よりあひよりいへる強言也占の  
 りハ上よいへる上心裏にゆるゆる云義にてこららむるハとあ  
 らむと心裏にあひゆるるを言義にて神量りよ飲らるる  
 をいひ出ぬるをうらまのめくといふは今世のト筮の如  
 著筮木ホたぐ、神の占のひはあずかる拙き業神の上は  
 らむやハ災を未萌におすハ智者也人すら然り神といへり  
 めさるらむふともまはるりハ太心と心はて右書の方をひえす  
 こは拳ていふハ占の固はくも也

名十四 二十

雑具之部

鍵うき

鍵 限ると云義也。○の結ひを畧して名とせり。

筧つ

筧 竹の管也。○の結ひを畧して名とせり。

つと号く。丹管 ぼりて云ハ二物一名なる也。

竹筒たけとう

筒扎 ハ半あとも云義也てあを ①たと約めて名とせりお出て世に  
取はずとも云義也誰と入あらずもハ掃りて ①たいり

刷毛 ちけ

刷毛 ハ掃りて云義なるをくえを ①けと約めて名とせり ①けと約て毛と

幟 のり

幟 ハ伸ねとも云義なるをびを ①ぶと約てのりといふ則登り也

薫爐 いどり

薫炉 火取也。

薫籠 たきものこ

薫籠 名さやう籠り

佛塔之部

寺てら

寺てらハてりあと云義なるをりあをらと約めて名とせり。てりハ也ハ形ハと云義也。莊ハ義ハのきハひハやハなるを云義也。らハと約めてハ義ハ定ハ不定ハの義とせり。

あり

ありハ生明と云義也。れあをらと約めて名とせり。堂塔伽

藍世ハ生明なる形勢のあり、なるを日光ハ生明と稱



たるなり。

いりり

入あのと云義也。日光のき入て時を分る子たも。仏閣の莊嚴のきこひや、肉の形好なり。

鐘 うね

鐘 うね うねバうぬえと云義なるをぬえをねと納めて名とせり。

ぬハ兼也。元ハ倍也。時を共りハ屋敷を兼。月化を兼。是ハ高

今世後世を兼りと云義也。變の鐘 夕の鐘 入おのぬ ねまの鐘

名十四 二十三

ねまの鐘 時の鐘 木いハ中子。入おハ日入合と云義也。ねまハ時子ね

と云義也。

金鞞 ひりぬ

金鞞 びりハ赤也。今叩き鐘と云ハのなり。

磬 うらひ

磬 ちりハなり。

幡

幡の名義ハ己子ナリ。

寶幢たからとう

宝幢未考。

蓋まぬらひ

蓋箱もてをける蓋ナリ。

燈明とうめい

燈明ハ教訓也。

浴室ゆふど

浴室湯屋也。

僧房之具

白拂 しろはらひ

白拂 蠅拂なり

衾 とぎ

□

葬具之部

棺 いっさき

棺 ひとつの椁也。名は椁のふよい。つらぬ。をきめて。并く時不定をひつと云なるを。ぎと結ひて。限り不極の義と有り。

擗 おんぎ

擗 大床也。大い言稱也。その人の擗也。

香輿 かうのり

火輿 ひのり

火樂 ひあや き名也。河桶也。火樂 ひあや 也。

縗衣 あはらぎ

縗衣 後布もておろす衣なり。

門燎 かどひ

門燎 なき人送るがふたぎ火也。

山陵 さんりやう

山陵 さんりやう 一ハ敬詞なり。古ハ世也。寺ハ世限也。万世子傳りて不知

限と云義あり

墳墓 ふんぼ

墳墓 つらハつきたあゆ。つきた築也。あハ形す也。人死て亡骸を地子掘む。そは子築形す不積也。つハ泊る也。りハ亦也。人百一生をつるふと云義也。

塚 つか

塚 つか 一ハ亦延る也。りハ亦也。人死て後まゝ為子。まゝの石をたつるふをまゝと云。

たまご  
冥瓦

冥瓦 亡人の瓦を焼く体と云義也。

刑罰之部 并具

つみ  
罪人

罪人 ハ罪動發り止る人と云義也。うとのよりハ上人之於りハ  
つみハ後也。つハ世音也。つハ納り止る也。方の悪事已おとこ細り止る  
不敷續りぬるを罪と云。

しと  
科

科 公於り少ぬる法なを科し、その方ハ深く生發る不  
とらと云。生發るハ世に形ハる也。

笞シシ

笞 罪人を拷問するに用ふる木枝也。一、めねと云義あり。一、めねをもとつてめと云ふ。一、めねと云ふ。罪人を領する外よ祭り止るといふ義あり。もと一、めねと云ふ。一、めねと云ふと云ふ。

杖ツ

杖 罪人を打杖なり。一、ハ杖なり。一、ハ杖なり也。罪人後ハ杖教多し。一、ハ杖なり云義也。

盤枷クヒカシ

盤枷 頸代何也。恥を繋ぐに代何あり。恥を領ると云義也。恥を勤らさる具也。まら如く罪人の首を自従せしめたる具なり。ハくひうと云。一、ハ杖なり。一、ハ杖なり。一、ハ杖なり。一、ハ杖なり。一、ハ杖なり。

鉗クヒカシ

鉗 以鐵束頸也。ねまきと云義なるを。ねまをあと約する。ねま。

錠シシ

銀 源是具也。絆のよこしより。袂もてしる絆なきは。類  
てしつり也。是も罪人を綴ひしるは。やらぬ具也。

録えんり

源 ハ金糸あると云ふは。あハウの款あり。袂もて罪人  
のものを束める具にて。俗に自注と云ふあり。

竹履あしづき

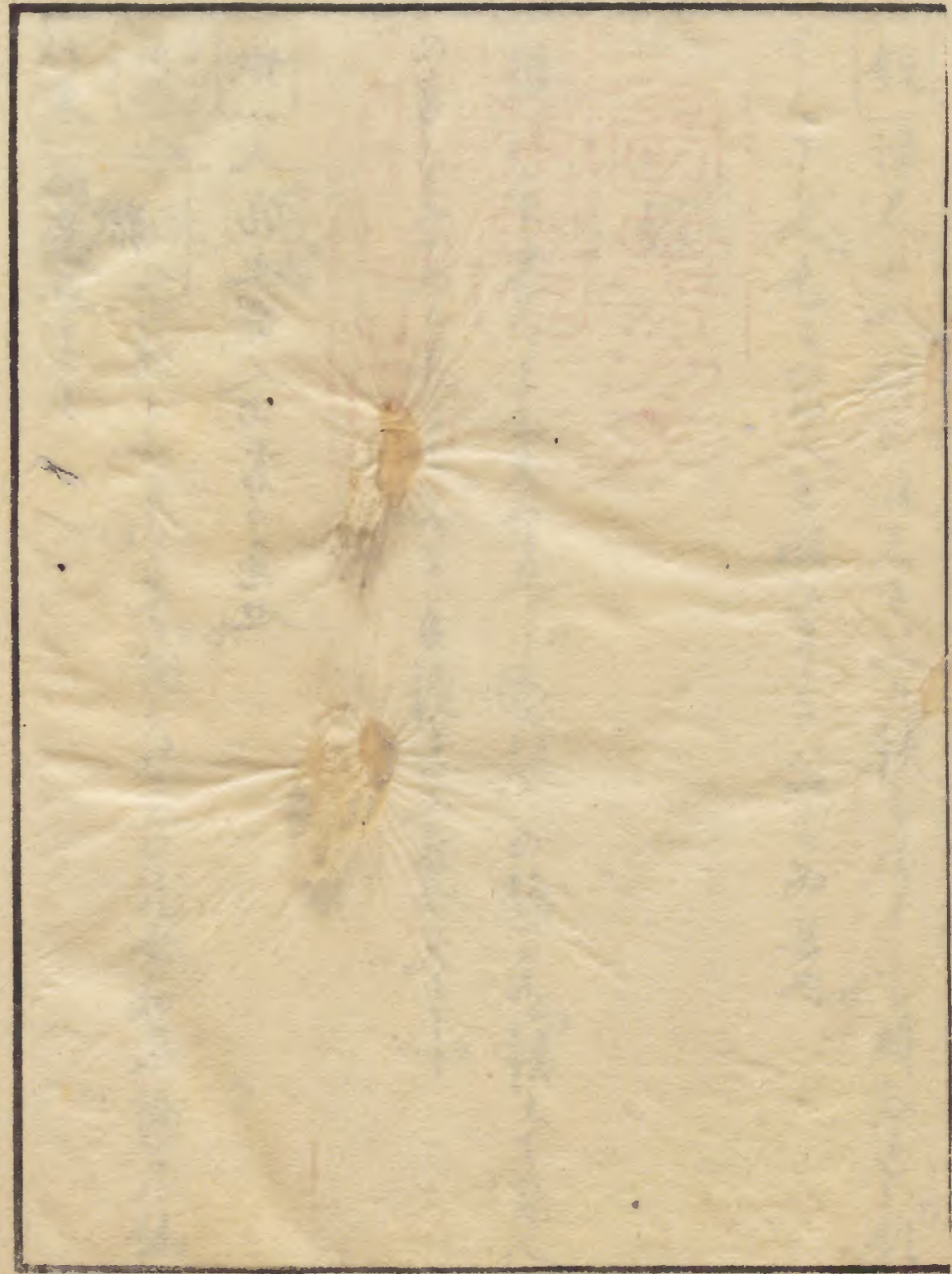
復あしづき 今細糸あともあり。細うけるは。和名新あしづき編  
竹木為あしづき也と云ふなり。

各十四 二五九

獄いご

獄 人住也。罪人の居る所也。





名  
出  
子



